

## 令和4年度第6回社会教育委員会議録

- 日 時 令和5年2月21日（火）  
午後2時から午後4時まで
- 場 所 徳島県庁10階 大会議室（一部Web開催）
- 出席者 徳島県社会教育委員：8名  
馬場委員長、泉委員、加藤委員、喜島委員  
多喜川委員、野中委員、中坂委員、横田委員  
事務局：10名  
教育次長、生涯学習課長、総合教育センター生涯学習支援課長、他7名

### ■会議概要

- 1 開 会
- 2 徳島県教育委員会挨拶
- 3 議事（1）今期「徳島県社会教育委員会議提言案」について  
（2）今後のスケジュールについて  
（3）その他

馬場委員長	本日は今期社会教育委員会議としては、最後の会議になる。2年間にわたって我々がいろいろ協議してきたことの取りまとめを行うという重要な会議になるので、各委員の忌憚のない御意見をいただきたい。それでは最初に、事務局から、これまでの経緯について説明をお願いします。
事務局	令和3年7月の委員就任以来、各委員には、さまざまな分野から御協議をいただき、昨年8月の第4回会議においては、今期提言テーマ「学びとつながりが拓くこれからの社会教育」副題として、「一人ひとりのウェルビーイングの実現を目指して」とすることで御承認をいただいている。 12月の第5回会議では、素案について協議をいただいたところであり、各委員からの御意見については、報告の後、説明をさせていただきたい。 本日は前回素案に関する御意見を反映させた事務局案を冊子の形で取りまとめ、皆様にお配りをさせていただいているので、後ほど御意見をいただきたい。これまでの経緯については以上である。
馬場委員長	それでは、事務局案について引き続き説明をお願いします。
事務局	資料はA4一枚ものを使い説明をするので、御準備いただきたい。 この資料は、提言の概要を示す資料として作成をしている。1に記載のとおり、今期提言については第35次社会教育委員会議において、各委員からいただいた御意見及び、それからH30年度の中教審答申、そして第10期、第11期と続いた生涯学習分科会の議論の整理を基盤としつつ、本県の前期の提言、第34次の成果と課題を踏まえ、社会教育行政が取り組むべき方策について意見を取りまとめるという方向で、これまで進めてきたところである。

テーマは、協議経過のところでも、報告をさせていただいたとおり、「学びとつながりが拓くこれからの社会教育」と設定した。このテーマの具現化により目指す姿を枠囲みで示すところの「社会的包摂を軸としつつ学びや、新たなつながりという視点から人づくり、つながりづくり、地域づくり」を推進し、一人ひとりのウェルビーイングの実現を図ることとしている。

前回、第5回会議では素案を皆様に提示し、今期提言の柱である「人づくり、つながりづくり、地域づくり」それぞれの課題と改善の方向について協議をいただいた。いただいた御意見については整理をし、本日提言案として、お配りしているような形で対応修正し、資料に反映しているところである。

次に、修正した点について順次説明をさせていただく。まず1点目、社会教育と学校教育との連携、協働の必要性、また、その推進状況についても言及すべきあるという意見をいただいた。

このことについては、提言案P5・P6にコミュニティスクール、地域学校協働活動、本部の推進に関する状況データを掲載した。さらに、コミュニティスクールは学校教育が所管している取組であるが、コミュニティスクールと地域学校協働活動の推進については、学校種あるいは、地域によって進捗状況に差があることから、P16に、今後もコミュニティスクールと地域学校協働活動を一体的に推進して取り組むという意見を盛り込んでいる。加えて、地域と連携しながら学校教育、それから地域が変わっていくという様を好事例として紹介をさせていただいた。P14では、鳴門高校の生徒たちが、さまざまに意見を出し合い鳴門市に提言を提出したという事例。それから、コミュニティスクールと地域学校協働活動が、一体的に推進されることにより、子どもたちの豊かで深い学びが実現されているという松茂町での事例を紹介している。

2点目として、文言の修正及び説明について、多数の意見をいただいたところであり、カタカナ、英語表記については平易に改めるという方向で修正を加えている。さらに分かりにくい用語については、文中に括弧書きで意味を加筆したり、ページの下段に説明を記載する等対応をしている。

当初は巻末の用語解説という形での掲載を考えていたが、各委員からの御意見を参考に、用語の確認の度にページをめくらず済むように改善をしている。

3点目、データ更新についての御意見をいただいた。文科省データを始めとする更新可能な情報に関しては、修正を加えた。

冊子P5に資料8、コミュニティスクールの赤いグラフが入っているが、この資料から資料13までを新たに追加し根拠の補強をしている。さらに、資料7については、文科省データが中間報告の段階で、データの更新が進んでいないことから、前回の調査分をそのまま掲載している。資料7は講座開設数であり、参加者数の割合ではないということをお含みおきいた

だきたい。グラフでは教養の向上、あるいは職業知識技術の向上等に関する講座開設について、徳島の現状に対し問題提起をするためのデータであることも併せてご理解いただきたい。

続いて4点目、提言の中に「徳島ならではの」、あるいは「徳島らしさ」を出すべきという御意見もいただいていた。

この御意見に関しては、県内の好事例を掲載し、社会教育の推進、それから、今期提言の重要なファクターである「社会的包摂」の実現に向け、地域を牽引する事例を紹介させていただき、「徳島らしさ」「徳島ならではの」を実感できるように努めたところである。

5点目について、意見をどのように事業化するかについて記載すべきではとの御意見をいただいた。事業化については、前回会議でも委員長から御説明をいただいたが、次年度予算が決定されていないことから、今期のこの提言の中では事業化に向けての方向性や想定される取組として記載している。記載内容についてはA4一枚の資料の3に「想定される取組」としてまとめており、具体化させて参りたいと考えている。

前回素案からの変更点に関しては以上5つであるが、グラフの配置、本文全体のレイアウト等については、印刷業者と調整をして、より分かりやすい体裁になるように努めて参る。事務局からの説明は以上である。

馬場委員長

事務局からの説明について、説明部分や、それ以外のところで各委員のお気づきの点、修正点があれば発言をお願いしたい。

泉委員

データとその分析がなされ、課題を洗い出している。その課題の解決方策が提言に結びつくような作りになっていて、非常に読み応えのある内容になっていると思う。1点、提言掲載資料についてお伺いしたい。私たちの団体はICTを活用して働くことに取り組んでいるので、P4資料5の表記が気になるところである。

記載資料はWi-Fiの整備についてのデータであるが、全館で使えるところが34%で、66%は整備されているけれども、全館で使えるわけではないという意味だと思う。文中に説明はあるが、データだけ見ると、「館内では全て利用不可」というように受け取れるので、表記としては、「全館利用可と一部利用可」とした方が良いのではないかと思う。修正についてご検討いただきたい。徳島市に暮らす私たちにとって公民館やコミュニティセンターは身近な存在である。今回、提言を読んで、改めて公民館の重要性を感じた。P4やP5の部分を読むと、全国では教養の向上というところが高い割合になっているが、徳島県では趣味稽古ごと等の講座が大きな割合を占めている。

これは多分、主観的なところも大いにあると思うのだが、学んだことが教育の向上につながっていると本人が思えるような打ち出し方が必要ではないかと思う。打ち出し方によっては、主観的な内容なので変わってくるのではないかと読んでいて思った。

馬場委員長

1点目の資料5の表記については、表現を少し工夫する必要があるので、

事務局に修正をお願いしたい。資料7については、文科省の調査時に、講座内容の分類について基準を示し、データ入力するようになっているので、現在、提示されているようなデータになっていると思う。ただ、趣味や稽古ごとだから駄目だというのではなく、それらを通して、人と人がつながりながら、学び合い、支え合いながら自分を伸ばしていく、成長することが重要であり、趣味等の講座開設も、一つの手段だと思っている。いきなり、「地域課題について学びましょう」といっても、すぐさま参加できる人はそんなに多くはないと思う。だからこそ、多様な学びがあって良いし、それらを通して、人と人とのつながりというものが広がると良いと思う。文科省データであるので、修正はできないというところを御了承いただきたい。

加藤委員

報道関係者なので、見やすさということに着目している。非常に見やすい提言案になっていると思った。キーワードがしっかりと構成されていて、全部で六つの事例が要所要所に配置されている。どこに配置すれば、見やすいかというページの変わり目等も意識して配置されており、非常に見やすいと思った。内容への意見については、これまで色々と討議をして詰めてきているところなので特にない。些細なことであるが、P22の資料の名簿について修正をお願いしたい。NHKが組織改正しており、放送部という名称からコンテンツセンターと変更になっている。資料として残るのであれば、コンテンツセンター長という肩書きにしていきたいと思う。ちなみに、放送だけではなくて、デジタルを意識したネット上のコンテンツにも、NHKは注力していくということで、コンテンツセンターというふうに名称を変更している。

馬場委員長

NHKを私も時々見させていただきますが、本当に素晴らしいコンテンツがいっぱいある。視聴覚教育の関係者が全国大会等を開催する時に、NHKの人が来て使い方やコンテンツのデモンストレーションをやるのだが、一般に知られるということが今後は重要というふうに思っている。NHKのホームページにアクセスする人は、どの程度いるのだろうか。

加藤委員

実はその部分は課題である。NHK for schoolで、これからもっと力を注いでいくように計画している。特に若い人は、テレビではなくて、ネットから皆さんアクセスしてくるので、そこで役に立つコンテンツをどんどん載せていこうという方向に舵を切っていこうと思っている。逆に、学校関係者の皆さんから、「こうだったらもっと使いやすいのになあ」という御意見をいただけたら嬉しい。

馬場委員長

社会教育のコンテンツの開発もぜひよろしくをお願いしたい。

喜島委員

しばらくお休みをいただいて、久しぶりに出席させていただいた。私たち婦人会は、公民館を活用してレクリエーション始め、いろんなことに参加してるが、本当に徳島県はこういうことに力を注いでおり、素晴らしいことだと思った。

馬場委員長

気が付かれた点があれば、事務局の方に連絡いただきたいと思う。

メールをいただいたのが昨日の19時16分。地域役員会がありまして、21時に学校におりました。家に帰って気付いたのが22時過ぎということで、今日は6時50分から交通安全指導に立っていたので、実際に、読んだのが寸前というところなので、上っ面なことしか言えないとが、3点についてお伝えしたい。まず1点目。カタカナ用語をさらに大胆に脚注に移していただきたい。例えばP5のカギ括弧部分。「徳島次時代を支える人材の現状」ということで、3行目に「地域学校協働活動」の幅広い推進等の取組が進められているという文章が見られる。我々が条例等を読む時に凄く嫌なのが文中に説明が入っていて、「～によると」という書き方である。例えば、丸括弧の部分は脚注に動かしても大丈夫ではないだろうかと感じている。それから、同様のものとして、カギ括弧の使い方としてP4であれば、上から4行目「とくしま社会教育主事の会」における意見交換会での声を紹介しているが、カギ括弧の使い方や脚注部分を工夫すれば分かりやすくなるのではないかと思う。また、難しい言葉が入っているので、もう少し動かしてもよいのではないかということが1点目である。

2点目として、長い文章を読む時には、始めと終わりを読めということ、鳴門教育大学の先生から論文の読み方として教えてもらった。初めを見て終わりを見たら、それが値打ちがあるかどうかが大体わかる。

大事なことは何かというと、3つの段落に分かれていて、1つ目2つ目が方法や手段について書いてると思う。主体的な参画の必要性と社会教育士制度への県民の理解についてで、この2つが主張されていると思う。その事が中身にしっかりと盛り込まれていると思うが、社会教育士のところを厚くしても良いのではというふうに思った。

3点目であるが、これ読んで私は非常にプレッシャーを感じた。学校の仕組み、「学校」というものが非常に大きく取り上げられており、本校では昨日の地域役員会で資源物資回収を止めるということを決定した。

地域との連携について考えさせられる部分であるが、現実的に言うと、保護者のひと手間を掛けて時間を割くという苦労がある。教員は資源物資回収を勤務時間外で通常実施する。教員はボランティアとして参加して、資源を一緒に集めて、それらを収入化し、その収益を用いて子どもたちにプレゼントするという流れなのだが、それについての限界が来つつあり、ここに書いてある提言とは全く相反することになっている。

私個人の意見ではあるが、学校の立場から言うと、働き方改革を強く言われていて、地域移管できるものは地域へとされている。

この中で人を配置する、例えば社会教育士をどういうふうに配置するか等、ここで言及するのは難しいかもしれないが、職として配置することは重要ではないかと思う。

以前、社会教育主事は人気の職であった。なぜならば、管理職登用への道の一つであったからだ。その資格はパスポートのようなものの一つでもあった。それが、時代は変わり、現実には管理職不足となっている。教員不

足もあるが、管理職になりたくない先生たちが増えてきているように感じる。東京都を始め全国各県でも、このことについては心配なこととして挙げられているが、この施策をやるために人が必要である。それを職として配置するというふうな方向性、コーディネートにつながらないか。

これは私個人の意見なので、提言に入れるかどうかというのは簡単なことではないが、このように思っている。上っ面のようなことを申し上げたが、これだけの分量をまとめられた労苦に敬意を表したいと思う。

馬場委員長

地域学校協働活動のようなところは、委員の意見のとおりであり、かなり浸透してきている。脚注におろしても、知ってる人は知っているし、知らない人はそうかなっていうふうに思うので、このような部分は読みやすくしたい。かつこの中が長過ぎると、やはり法律も同様だが、本当に最初と最後が分からなくなってしまうところもあるので、なるべく文章を分かりやすくするという方向性で修正できればと思う。また横文字が多様されると、なかなかそれが伝わらないということがあるので非常に難しい。語句説明の記載についても、文中の語句のすぐ近くに説明されていると確認しやすかったり、逆に、ページの下の方に記載すると、離れてしまって読み辛かったりする。巻末ではなく、ページの下に入れば少しは読みやすいのではと感じる。表記の工夫をさせていただければと思う。

それから、社会教育側から学校教育への提言として、かなり今回も書き込まれている。学校教育側から見たらどう感じるのかという意見があるが、今後は「社会に開かれた教育課程」ではないが、もっと社会と社会教育、学校教育が一緒になって次の時代を担う子どもたちを育てていくということが非常に大前提になってくる。地域にとってみれば、このようなことを通じて地域住民が成長していくということについて、もっと理解してもらおうということが非常に大事だと考えている。

地域学校協働活動であれば、地域学校協働活動推進員という人がいるので、そういう人が社会教育士の資格を取ることになれば、一般の人が活躍できる場ができる。全てをボランティアで賄うのではなくて、きちんと食べていけるような職業として、いろいろな場で活躍する人が生まれるような社会にして行くべきだと思う。

ただし、ボランティアが大事なことは変わらないので、可能であれば、そんなところを少し付け加えさせていただければと思う。また、ご覧いただくのが間際になったようであるので、各委員、もう1度目を通していただいて、事務局の方にご連絡いただければと思う。

中坂委員

拝見して内容が細かく練られており、分かりやすいと感じた。グラフ等のデータや資料が掲載されていて、問題点が明確になっているので、すごくいいなというふうを感じる。掲載事例についても、いろいろな活動分野を掲載することによって、すごく訴えかけるものがあるなというふう感じた。

特に、若い高校生たちの取組は、私自身の刺激になった。心動かされる

ものがあり素晴らしいと感じた。

横文字等については自分で調べながら読むこともあった。提言の内容について、あまり知識も豊富ではないので難しい部分もあったが、素晴らしいものだと感じている。

馬場委員長

若い感性で見ていただき御意見をいただいた。高校生の活躍のような事例が出てくるのはいいと思う。先週末出席した山口のセミナーでは、県が鳴門高校でやっているような総合的な探究の時間を使って、自分で課題を見つけ、その課題に対して2年間かけて取り組むという事業が行われている。その事業の一年目が終わって中間発表が行われていた。すごくしっかりしていた。それは県事業としてやっており、参加人数が多いわけではないが、最初は全然興味がなかったけれども、実際応募して、やってみるといろいろな人の助けを借りながら、社会と関わりながら様々なことが学べてよかったという発表があった。本当に、しっかりしていて、こういう子が大人になったら地域を引っ張る存在になるのではないかと思った。

一人はLGBTQを取組課題として挙げて、私は同性婚を実現させたいという意見を高校生が述べていた。こんなふうに若い人が世の中を次から次へと変えていく力が出てくれば素晴らしいことだと思う。

野中委員

内容等については、例えばP4の資料4のWi-Fiについて、これは徳島県のデータだと思うが、全国と比べて徳島の状況が良いのか悪いのか、その点について、来期の提言の時に比較できる表があれば、ありがたいと思う。それから、前回の提言資料も見たが、今回の資料にも本県と全国を比較した長細い表が何点かある。比較できるので良いのだが、字が小さくなるのが気になった。全国比の掲載は必要だと思う。

提言は、これまで5回の協議を経て、このように、まとめていただいて感謝している。ただ、このA41枚の方の資料の3だが1、「人づくり」2、「つながりづくり」3、「地域づくり」となっているが、実は私の考えは、3の「地域づくり」が最優先、1番に来るべきと思う。地域づくりから始まって、つながりを持って、人をつくるというやり方を私は実践している。

馬場委員長

例えばP4の表は文科省の調査であ、徳島県の状況が比較できるデータについて事務局いかがか。

事務局

この資料を作成した段階では、全国比が出ていない。昨年夏ごろに文科省が県内各市町村に直接実施したデータを、生涯学習課で独自に回収をして掲載をさせていただいている。現段階で文科省の方ではまだホームページ等に掲載しているものではないので、全国比を挿入すること難しい。

ただ、P4の資料4・5でも見られるところであるが、前回社会教育統計で比較をすると、徳島県の公民館等におけるWi-Fi等の整備率はかなり低い状況であった。このことは平成30年度の報告でも上がってきている。

馬場委員長

まだ、文科省の中間まとめの段階で、全体にデータが出ているわけではないので、それが出た段階で各県の比較が可能になってくると思う。これについては、お待ちいただければというふうに思う。

それからコミュニティ・スクール、地域学校協働活動のデータについても、文字が小さいという御意見のとおりだと思うが、全国と比較しながら本県の状況を把握をすることは可能だと思う。これは文科省のホームページにも出ているので、そちらを参考にいただければと思う。

事務局

文字の小ささ等について御指摘を受けている資料5・6の「コミュニティ・スクール」、「地域学校協働本部」の整備率のデータ、それからP6P7にわたって掲載の資料中10から13については、文科省のホームページ掲載のPDFを貼り付けているという状況である。

拡大も試みたが不鮮明になるので、今後、印刷業者等とも調整をして、より分かりやすく工夫をして行きたいと思っている。

馬場委員長

この部分は、印刷業者と調整させていただき、なるべく見やすいようにしていきたい。

野中委員

もう1点、お聞きしたい。この提言はどこまでの配布を予定しているか。

事務局

前回提言の例を参考に回答させていただくと、県内外の社会教育関係所管課にデータで共有をさせていただいている。それから、県立学校等には各校1冊程度になるが提言を配布している。

もちろん、県のホームページ等にはデータ化して掲載をしているので、若干、見辛いデータ等はホームページ等も活用しながら御確認いただくと幾分大きく見ていただくことができるのではないかと思う。ただ、御意見いただいたことに関しては、可能な部分は、改善できる方向で進めていきたいと思っている。

横田委員

本日は、校務の都合上オンラインにて参加させていただく。提言も昨日から拝見させていただき、全部目を通させていただいた。本当に素晴らしいまとめになっており、今までの事務局の苦勞がよく表れていると思う。

私は、3期前の提言に関わらせていただいております、以前から思っていたことがある。今回も課題の部分が本当に明らかになっている。現在の県の課題であるとか、県の社会教育の抱えている課題であるとか、本当に明らかにわかりやすく書かれているということは素晴らしいことだと思う。

視点を変えると、課題がわかりやすく書かれているということは、課題がまだまだあるということであり、課題がなかなか無くならないということである。課題の中には、私が3期前に提言に書かせていただいた時と同じような課題も実はあった。提言に携わった者として、一抹の寂しさを感じている。

内容について異存はないので、今度は、この提言をどう使うかということになるかと思う。例えば、県庁内で教育長さんとかにレクチャーをする場があると思うが、この提言を持参していただいて、提言内に書かれているこの部分について、今度は事業化を図って行くということや、提言に紐付けた事業提案等が、今後行われて予算の獲得に結びついていけば、提言の具現化が進むのではないかと個人的に考えているところである。

このように考える理由は、GIGAスクール構想により高校生も全員、



1人1台端末を持っている。本校では定時制と全日制両方抱えているが、生徒全員が高い水準で使えるようになっている。

教師が電子黒板で、例えばパワーポイントを投影するだけではなくて、生徒1人1人がかなり使える状態になっており、生徒の方が先に進んでいる。この状況は予算をつけて一斉に実行に移すということは非常に意義があるというか、かなり進歩することなのだと思ふ。ICTの活用ということに県の方で力を入れて今の状況になっている。目に見える変化があるというのは、予算をつけて事業化をしてきたことの成果ではないかと思ふ。今申し上げたことが、気づいたところである。それから、本校の事例を取り上げていただき大変ありがたい。

この事業は、文科省の国費を使った学校教育課の事業として実施している。先ほど委員長が話されていたように本校では、総合的な探究の時間に絡めて事業展開するという特色を打ち出した。公民科の新しい科目として「公共」という科目が令和4年度から新しく実施されている。本校での本格実施は来年からということになっているが、「公共」の前倒しとして、本年度は公民科の「倫理」という科目で実施した。「倫理」の科目選択をしている生徒を中心に鳴門市への意見書を提出した。

総合的な探究の時間でも同時進行で考えて、その意見も加えながら意見書をまとめていった。本校OBの市長、市議会議長にもお渡しして、直接意見書を参考にするといったお言葉を頂いた。市長が意見を直接聞いてくれたこと、生徒たちは感激していたし、もしかしたら、今度の鳴門市の行政に関わってくるかもしれないという期待感を持っている。今回の事業は非常に良かったと思っており、このように取り上げていただき、ありがたいと思っている。

生徒たちは、授業や総合的な探究の時間に、いろいろなことを学び、その中で多様な人から意見をもらって、その学びを調整していく。調整力、渉外力につながっていくと思うので、私は、生徒がいろいろな人とつながり、勉強していったということを嬉しく思った。提言に書かれている「人づくり、つながりづくり」につながっていくようなところではなかろうかと思う。今回のように、具体的な事業を実施することによって、さらに前進するというような流れを社会教育の世界でも本当に進めていただきたいし、私も関わらせていただきたいと常々思っている。

提言については、今後、これをどういうふうに生かしていくかに尽きると思うので、引き続きお願いしたい。

馬場委員長

大変貴重な御意見をいただいた。他県でもよく起こるのは絵に描いた餅のままで終わってしまうことである。こういうことが必要だということは提言として毎回出されているところが多いが、現実ベースとして、どこまで予算化して実現していくかということが非常に難しい。だから、事務局の方が、いろいろ努力をされても、やはりなかなか難しいという部分がある。

一つ例を挙げると、教員の研修で社会教育のことを一コマでもいいから、

取り上げてほしいということについて、随分以前から申し上げているところであり、少しずつ実現しつつあるようだ。

いろいろな人の理解を得ながら、政策に乗せていくということが重要。我々も色々な意見を申し上げた手前、それを実現していただくのが一番良いというふうに思う。我々としてもアピールできるところはアピールしていかなければいけないと思う。このような取組を一般の人にも知っていただくことも大事なことだと思う。

それによって、県民の意識が社会教育への理解につながれば、こうした我々の提言も本当に実のある方向性になっていくのではないかというふうに思う。ぜひとも、できるところからチャレンジしていただきたい。

それでは私からも、気が付いた点について述べたい。「学びを通じた社会的包摂の実現」というP18の下の②のところである。国の中教審の社会的包摂に触れた中間まとめの中で、一番特徴的なのは、貧困の子どもたちについて言及しているが、この提言の中で表記されていないのが外国人についてである。現在は、コロナで外国の方々が日本に来るということは少ないかもしれないが、東京に住んでいると外国人が多いと感じる。観光ではなく住んでいる。徳島の場合と状況が異なるかもしれないが、地域に住んでおられる外国人の人達も住みやすい社会ということを意識したほうが良いと思うので、その点は触れるだけでも良いので入れておいていただければと思う。このような意見については「芽出し」として入れておいて、次の委員会に持ち越して協議していけたらいいのではないか。

それからP12の子どもたちのリアルな体験についてである。先ほども申し上げたが、リアルな体験だけでなく、バーチャルな体験というのも一つの方向性としてある。AIを使いながら、例えばeスポーツ等も視野に入れていくのが良いと思う。国際大会まで開かれているので、今後を考えると、バーチャルな体験、デジタルを活用した体験というものについても検討しなければいけない課題だろうと思う。例えば、障がいのある子どもたちが、直接的には難しいけれども、インターネットやコンピューターを使いながら活動に参加できるということもあるので、そのような選択肢の拡充という意味でも、社会的包摂につながるのでリアルとバーチャル両面の体験についても検討してほしい。「芽出し」として入れていただければと思う。

私からは以上であるが、まだ、時間があるので、各委員から意見の補足等あれば、お願いしたい。

泉委員

先程の私の意見について、委員長からも補足いただいたが、趣味とか稽古事よりも教養の向上の方が大切といったニュアンスに受け止められたかもしれないが、私が伝えたかったことは、趣味・教養であっても自分の学びになっていると本人が実感できることが大事だということである。子どもから高齢者までが自分らしく生きられること、そして、様々な選択ができ、その選択を尊重できるような社会にするためには、やはり子どもから高齢者までが学ぶことができる、例えば、それが趣味かもしれないが、そ

ういうことを続けられ、皆が認められる社会になってほしいという意味で申し上げたので、それを補足させていただきたい。

馬場委員長 学びの保証といったところが一番重要である。学びを通じていろいろな人が、つながり学んだ成果というのが、社会で生かされることである。

一番好ましくない状況は、学びが個人の中にとどまっている点だと思う。もう少し学んだ成果を外側のために活かしていくということが起こってくれば、日本の社会もずいぶん変わっていくのではないかと思う。

多喜川委員 では1点、補足したいと思う。先ほど横田委員の意見にあったが、この提言をどのように使っていくかという点についてである。例えば、県知事部局の財政当局と協議をする、これを用いて予算化するということであれば、人の配置という部分については、できたら触れていただきたい。社会教育、以前は派遣社会教育主事という制度が、県内でもかなり広く普及をしていたが、学校に籍のある社会教育士だったり、社会教育主事であったりが県立学校、市町村立学校、どちらでもいいのだが間を取り持って学校の事情も理解してくれて、いろいろなことをつないでいけると感じたので、もし可能であれば言及してほしい。

馬場委員長 大事な意見だと思う。栃木県がすべての公立学校に社会教育士の資格を取った教員を配置しようとしている。学校側には教員がおり、教育委員会の事務局には社会教育士の資格を持った推進員がいて、そういう人たちを中心に両方を繋いでいくということを目指している。徳島県でも、そのような方向を目指していけば、もっと子どもたちの教育の質が上がってくると思う。地域の人たちが、どんどん教育に関わる、例えば、鳴門高校のように、地域を知り多様な人とつながっていくところを直に肌で感じられるので、そのようなところについて、少し検討させていただきたいと思う。

野中委員 提言については特にはない。私事であるが、先日、市の方に意見を述べる機会があったので、公民館利用者に多彩な情報を届けたいが、Wi-Fiが繋がっていないという課題がある。今年11月に「アエルワ祭」という行事を実施する予定で進めており、今回は佐藤委員と一緒に協力してくれることになっている。しかし、アエルワは大きな防災施設でもあるのに、Wi-Fiが繋がっていないので、「アエルワ祭」実施の上で大きなハードルになっている。行政も予算導入するには数年かかるので、今から始めていただきたいという趣旨のことを伝えた。

馬場委員長 徳島県は光ケーブルが、中山間地域まで整備されているが、個々の施設の状態となると、まだ整備途中というところだと思う。学校はすでにデジタル化を進めているので大丈夫だと思うが、社会教育施設となると難しい部分もあるかと思うので、市町村にも力を入れていただけるように、働きかけることが大事だと思う。

横田委員 提言案に関しての意見はない。ここ2年ほど鳴門高校でも、例えば、地域の方に来ていただいて学ぶという活動に力を注いできたところであるが、

実は、生徒たちが外に出て活動することから得られる学びは非常に大きい。今後は、地域の方に来校いただくばかりではなく、生徒たちが地域に出かけていくということもバランスよく取り入れたいと感じている。

地域の中で子どもたちがどういうふうにつくか、また育った子どもが地域に戻り、どういうふうに地域貢献するのかというような循環が生まれる社会を目指し、子どもたちを育てていけたらと思っている。

馬場委員長

非常に貴重な御意見をいただいた。いろいろな人が子どもたちの教育に関わるということが大事である。そういう仕組みを、どのように作っていくかということが極めて大事なことだと痛感している。

各委員から御意見をいただいたところであるが、その他、お気づきのことがあれば事務局に連絡いただければと思う。今後、事務局と私で修正をさせていただくが、事務局と委員長に一任するということが御了承いただきたいと思う。その後、教育長に提出をさせていただくが、こちらについても、日程等を事務局と私の方で進めさせていただこうと思うので併せて御了承いただきたい。